リーダーが夢や希望をもたせないでどうします？

「再来年の大阪・関西万博で、自前で建設することになっている五六のパビリオンのうち、現時点で建設会社の選定を終えるなど具体的な準備を進めているのは一〇か国程度だということが関係者への取材で分かりました……」。

八月七日のＮＨＫのニュースウェブに載っていた記事です。

「いのち輝く未来社会のデザイン」というテーマを掲げた大阪・関西万博２０２５は、よう考えたら、いやよう考えんでも、もう再来年に迫ってます。

早いですなあ。ついウクライナでの戦争や日本でも各地で起こる災害に目が向いていたら、万博はもうすぐそこです。冒頭のニュースのように、あまり準備は進んでないようですが、大阪人としては、是が非でも成功させねば、なりません。

この間、関西の有名な不動産会社の社長さんがウチにみえました。

話を聞いてますと、シンガポールの成功している実業家の方の話が出ました。

シンガポールは小さな国です。東京都より少し小さい面積に、五五〇万弱の人が住んでます。そやけどアジアの金融センターとしては第一位の地位を占めいてます。世界的にもニューヨーク、ロンドンにつづく三位だそうです。すごいですなあ。

それでは、日本はというと、お話になりませんねえ。

国際経営開発研究所（スイス）が、六月に発表した「世界競争力ランキング」では、シンガポールが三位、中国が一七位、日本は三四位となっています。

ホンマ、ここまで落ちたんですかなあ。がんばらないといけませんねえ。

コロナ禍は終わったわけやないけど、大阪も、ようやっとインバウンドの外国人の観光客が増えてきて、賑わいが戻ってきてます。

このまま、この勢いが万博まで続いてほしいですわなあ。

シンガポールのモデルをどう関西風に味付けするか

そうや、シンガポールの話です。またどっか別の方向に行きかけた（笑い）。

不動産会社の社長さんによれば、シンガポールの実業家の方は、お国で成功したモデルを、日本にもってきてもええ、とおっしゃってるそうです。

これはええ話です。そやけど、企画はええと思いますけど、問題は誰がやるかです。

◉（株）アオキ取締役会長
青木　豊彦（あおき・とよひこ）

大阪府生まれ。1997年（株）アオキは航空機メーカーのボーイング社の認定工場に。東大阪の技術力を生かし人工衛星「まいど１号」を開発、2009年に打ち上げ成功。無人垂直飛行機「ＡＫＩＴＵ」も開発に成功した。2014年国立和歌山大学客員教授に就任。2016年大阪市立大学学長特別顧問に就任（現在は、大阪公立大学客員教授）。2020年国立滋賀医科大学学外有識者会議委員に就任。（一財）ものづくり医療コンソーシアムの理事。

シンガポールのモデルを、どう関西風に味付けして実行するか。要は実行力があって運のいい人がいるかどうかです。

ところで、日本人は不安遺伝子を持つ人が多いそうです。歴史的に災害の多い島国では、そういう遺伝子をもっている人が生き残ってきたのか、ようわかりませんが、とにかく不安遺伝子をもっている人は世界でも日本が多く、八〇・二五パーセントという数字があります。これ、スペイン人の四六・七五、アメリカ人の四四・五三と比べると、ようわかりますなあ。

この遺伝子、人生も国も、上り調子のときは、どうってことないかもしれませんが、いったんつまづくと、ワッと目を覚まして、人間暗くなるのかもしれません。

最近は熱意のある人が集まり創造のためのケンカやりますか？

例えば、前に大阪で開催した、一九七〇年の万博みてみましょう。

高度成長のおかげもありましたが、元気でしたなあ。

なんせ、画家の岡本太郎さんがテーマ展示プロデューサーで、建築家の丹下健三さんが基幹施設プロデューサーというすごい組み合わせでした。二人は、ようケンカしてたらしいですけど、新しいものを生み出すのは、エネルギーいるものです。こんなケンカはドンドンやるべきです。

そういえば、最近はこんな熱意のある人が集まり、創造のためのケンカやりますか？

僕もあちこちの会合に出ますが、ないですねえ。

節約、倹約ばかりでは、どうもなりません。

倹約でよう例に出るのは、大阪のオバチャンです。同じ野菜が五円でも安いと聞けば、遠くのスーパーまで出かけて買い物してきます。オバチャンたちは、日頃、あちこちにアンテナを巡らして、常に身近なことに注意払ってます。

それはそれで、庶民としての生き方でええと思います。

そやけど、国や会社や組織のトップ、引っ張る人は違います。リーダーは節約や倹約ばかりでなく、皆に夢や希望をもたせないといけません。

そやないと、その国の人、その会社や団体の従業員、夢もてますか？希望もてますか？

「一九七〇年のこんにちは……」と三波春夫さんは、歌で世界に呼びかけました。

そんなアピールを、夢を、大阪・関西万博２０２５でも楽しみたいもんです。

●東京・有楽町の数寄屋橋公園には岡本太郎デザインの「若い時計台」（1966年）がある。1970年の大阪万博の4年前に完成。